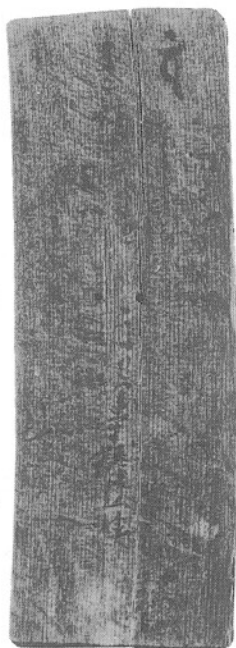


氏にご教示・ご協力いただいた。

(西田 宏)



徳島・敷地遺跡 しきじ

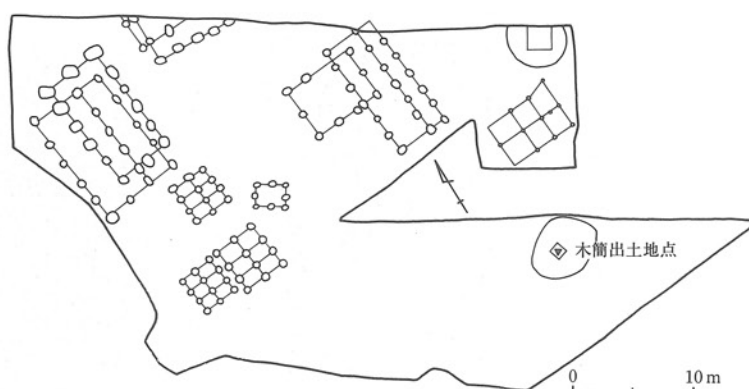
- 1 所在地 徳島市国府町敷地
- 2 調査期間 一九九九年(平11) 四月～二〇〇〇年三月
- 3 発掘機関 (財)徳島県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 氏家敏之
- 5 遺跡の種類 居館跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代後期～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(川 島)

本調査は、道路改築事業徳島環状線建設に伴うものである。調査対象地は、徳島市の西部にあたる。一～五区の調査区を設定し、九四九六㎡を調査した。

調査対象地は阿波国府方八町推定域から北に約一〇〇m、国庁の存在が考えられている四国霊場一六番札所観音寺や、また多数の木簡が出土した観音寺遺跡(本誌第二〇・二二号)付近からは北に約六〇〇mの地



主要遺構配置図

点である。

本調査で検出した主な遺構は、古墳時代の二期（五世紀末・七世紀前半）の竪穴住居群・土壙墓、奈良時代～平安時代にかけての掘立柱建物・井戸・土坑・溝・水田などである。

今回報告する木簡は、掘立柱建物によって構成された居館の敷地内に構築された井戸より出土したものである。居館は「コ」の字状に建物が配されており、建て替えにより八世紀前半と八世紀後半～九世紀前半の二時期のものが検出されている。木簡の出土した井戸は前者に伴うものである。

井戸の掘形はほぼ円形で、径四・七m深さ二・八mを測る。井戸枠は検出面より下約一m以上については木質が遺存しており、隅柱

をもつ方形で内法は九〇cmである。井筒には、径四〇cm深さ二〇cmの円形の曲物が据えられていた。木簡以外の出土遺物には、刀形木製品・曲物・檜扇・用途不明木製品・土錘・土師器皿などがある。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「勝浦板野麻殖那賀」

250×50×10 011

木簡は短冊型と考えられるが、「那賀」の下の右側に切り込みが見られる。内容は阿波国七郡（阿波・麻殖・板野・名方・美馬・勝浦・那賀）のうちの四郡の郡名を記したものである。（氏家敏之）

